

一般選抜(後期日程)

- 人文学部 ●法学部 ●経済学部 ●商学部 ●商学部第二部
●理学部(応用数学科, 社会数理・情報インスティテュート) ●工学部(機械工学科, 電気工学科除く)
●医学部(看護学科) ●スポーツ科学部

84

B

二〇二六年度

国

語

問題冊子(二～九ページ)

注意事項

- (一) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (二) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (三) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし、解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (四) 解答用紙左下に受験学部・学科コード、受験番号、氏名を記入すること。

〔解答用紙記入例(選択式の場合)〕

例一. 〔語群〕が二桁で

11	大阪
13	長崎
12	佐賀
14	東京
とある場合	

例二. 〔語群〕が一桁で

1	大学
3	高校
2	中学校
4	小学校
とある場合	

問 X	
16 / 17	A
18 / 19	B
20 / 21	C

Aの解答が佐賀の場合
Bの解答が東京の場合
Cの解答が大阪の場合

問 X	
51 /	a
52 4	b
53 2	c

aの解答が大学の場合
bの解答が小学校の場合
cの解答が中学校の場合

〔一〕

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

科学の世界において、時空間構造はニュートン力学や相対性理論によって説明されてきた。科学において時間は時計で測ることができ、均質な数値であり、空間は座標軸上で長さを測定できる数値である。時間も空間も均質に延び^{ひろ}拡が^{ひろ}っていき、数値の連続的な変化によって時空間構造が描かれ、事物はそのなかの座標軸にマッピングされる。

似たようなかたちで、社会科学では、時間と空間は年表と地図によってマッピングされる。年表はまさに数直線上に出来事を位置づける営みであり、地図は事物や出来事を客観的な平面の拡がりのなかにマッピングする。

しかしながら、経験の時空間は、Aで位置づけることができないし、外から観察することもできない。経験のリアルがもつ時間と空間は、おそらくは偶然性^aやリズムという切り口から考えるとわかりやすい。

それは、私たちの経験はつねに偶然にさらされているからである。ものが頭の上に落ちてくるかもしれないし、登校中にばったり別れた恋人に会うかもしれない。そもそも恋に落ちるのは偶然の出会いがきっかけだろう。また、いつどのような病気になるのか、障害をもつかどうかは予想できないし偶然降^ふつてかかるとしか言いようがない。私自身もたまの出会いの積み重ねで今まで様々な研究をする機会に恵まれた。

偶然出会う出来事とともに私たちの人生は作られていく。人間が変化するのは、つねに出合い頭の偶然の出来事、一期一会の偶然の出会い、思わず口に出た偶然の言葉をきっかけにしてであろう。

出来事が起きた日時は年表のどこかにプロット^{*}できるが、出来事がなぜそのとき「たまたま」起きたのかという「たまたま性」は、年表には書き込めない。とはいえ「たまたま」はまぎれもなく時間的な経験だ。

近代日本の哲学者である九鬼周造^b（一八八八―一九四一）は、偶然という問題に真正面から取り組んだ数少ない人物である。彼は偶然を、定言的偶然、仮説的偶然、離接的偶然、原始偶然という四種類に分けて議論した。

定言的偶然は「法則の裏面に例外としての偶然性」がともなうことである。これは、統計的な法則性には収まらない個性のこ

とを指す。つまり統計的な客観性から私たちの経験はつねに逸脱していく。

仮説的偶然は、「遭遇」のことであり、出会いの偶然性である。もちろんさまざまな因果関係を無限に計算することができるならば、たまたまの出会いはずの物理法則のなかで必然的に生じたということができるかもしれない。しかしそのような計算はまさに「無限」の要素を考慮する必要があるが、それは不可能である。それゆえ出会いには実質的には偶然なのだ。

離散的偶然は、枝分かれの偶然である。「こうなったかもしれないが、そうはならなかった」「この道を選んだが、他の可能性もあった」、そういう偶然である。九鬼はサイコロの六マスの確率を用いて議論している。サイコロを何万回と試してみたら、五のマスが出る確率は限りなく六分の一に近づくだろう。この六分の一という数字が確率である。しかし次の一振りでのマスが出るのは、六つの可能性へと枝分かれする偶然なのだ。確率とは人生の偶然を枝分かれに見立てながら多数のサンプルを集めて客観化することで枝分かれの偶然性を飼いならす営みだ。

最後の原始偶然、世界がそもそも存在するということ、あるいは私がこのような仕方でもそもそも存在するという変えようのない事実のことだ。存在の始まりを予想することもできないし、存在の理由を説明することができない「ただ在る」としか言いようがない存在の事実のことである。例外・出会い・枝分かれという偶然は、「在る」という原始偶然に由来すると九鬼は考えていた。

九鬼は、偶然が経験の生々しさに関わると述べている。

芸術が偶然を対象内容とすることを好むというのは、偶然が生命感を伴う事実に基づいていると思う。（中略）自然現象の偶然性は予知し難いもの、法則に捉え得ないものである。そこには個性と自由とが現れている。生命の放埒と恣意の遊戯とが現れている。その生命、その遊戯が美しいのである。その潑刺たる逸脱性に対する驚異が感動を与えるのである。

偶然は生命と関わる。法則から逸脱し、¹ホンポウな結果を選ぶ。そのような遊びのなかに経験の生命感すなわち生々しさは宿る。

私たちの行動はしばしば突発的なものであり、因果関係では説明できない。予測できない偶然の出来事のもとで、偶然の行動

が生まれ、私たちはあと戻りできないしかたで変化する。その理由はしばしばあとづけされ語られる。それゆえに語りは偶然を保存するし、語りのぎくしゃくした表現は経験の生々しさを示す。

実は客観性や普遍性を謳う科学も偶然性と縁が深い。近代の学問は、一見するととりとめなくランダムに生じている偶然の出来事をどのように合理的に理解するのか、という観点から発展してきたとさえ言える。現代医学のスタンダードであるエビデンスにもとづいた医療と呼ばれる標準化をはじめとして、客観性と妥当性を重視する近現代の科学は統計学に依拠している。科学哲学者のイアン・ハッキングによると、統計学とは、世の中が偶然の出来事で満ちていることを認めた上で偶然を飼いならすための学問だ。賭け事、船がソウナンする確率、都市部での地区ごとの死亡率、といったさまざまな偶然をなんとか取り押さえようとしたのだ。ハッキングは言う。

私は偶然の飼いならしについて、つまりいかにして（偶然）あるいは規則的でない出来事が自然法則や社会法則の根底にはつきりと据えられるようになったのか、について書いている。（偶然）は、（中略）自然科学と社会科学の中心になった。

統計学は、たくさんハのデータを集めて数学的な処理をすることで、出来事という本来偶然かつ個別的に生じるものから法則性を導き出す方法だ。これは学問の重要な成果だ。私たちの生活は、統計学によって偶然を統御ドすることを抜きには成り立たない。一見すると無チツジヨハな自然現象や社会現象のなかに法則性を見つけることで、例えば天気を予報したり、がんの予後や治療薬の効果、感染症の罹患率りかんなどの計算が可能になるのだ。統計学は偶然の出来事に正面から直面するのではなく、少し目をそらして外から眺めることで飼いならす。しかし、偶然との出会いから生まれる B の経験や、説明を超えた変化を、統計学は考慮しない。

逆に言うと、統計学の発達は、私たちが日々直面する出来事とその経験が、意のままにはならない偶然に支配されているということを知らしめる。例えば、一生のあいだにがんになる確率は、男性で六五%、女性で五〇%ほどだ。治療方法も治験を通して統計に基づいて効果が測られ、標準治療としてマニュアル化されている。

しかし、実際にがんになるということは、患者それぞれで意味は変わってくる。病とどのように出会うのかは人によって異なる

り、どのように受け止めるのか、病に対してどう応答してその後の生活を組み立てるのかは、本人の年齢や家族関係や社会関係によって大きく変わってくる。偶然の出来事に対しては、受け止める側の反応も個別的で多様なのだ。同じ診断名の病気であっても一人ひとりのストーリーは異なる。偶然の出来事をめぐって一方では統計学を用いて飼いならそうとする方向性があり、他方では偶然に満ちた人生にストーリーを与えて意味を探す方向性がある。

偶然を言葉にしていく語りとは、言葉にしがたい現実に対して、最低限ナツトク^ニのいく言葉と行為によって応答する営みだ。見出された言葉は場面に適合しないかもしれないし、違和感が残るかもしれないが、しかし語りきれないことがあること自体もまた経験の重さのしるしだ。経験を語り尽くすことはできない。しかし語ることでは経験は意味を持たない。このようなキン^ホチヨウ関係が経験と語りのあいだにはある。

^e 経験の重さは言葉にならないものであり、それゆえに不完全にでも語ることを通して私たちは経験の生々しさに対して応答しようとする。筋が通らず意味を持たない現実に対して、かりそめにせよ意味を与えることで生き延びる試みが物語るという営みだ。即興の切実な語りを丁寧に分析していくとき、偶然の出来事を生き抜くその人固有の「形」がみえてくる。

——村上靖彦「客観性の落とし穴」による——

*プロット……データなどを図表上に点として示すこと。

問一 空白部Aに入る最も適当な言葉を次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- | | | | | | | | | | |
|---|---------|---|-------|---|------|---|------|---|-----|
| 1 | ニュートン力学 | 2 | 相対性理論 | 3 | 座標軸上 | 4 | 年表の上 | 5 | 地図上 |
|---|---------|---|-------|---|------|---|------|---|-----|

問二 傍線部 a「偶然性」の例として本文中で述べられているものを次の選択肢の中から一つ選び、その番号を記せ。

- 1 ものが足の甲の上に落ちてくる。
- 2 人は生きていると必ず病気になる。
- 3 出会い頭に衝突した人と恋に落ちる。
- 4 努力の結果、研究する機会に恵まれる。
- 5 思わず口に出た言葉で人生が変化する。

問三 傍線部 b「九鬼周造」の偶然に関する考えについて、本文の内容と合致するものには1を、合致しないものには2をそれぞれ記せ。

- 1 定言的偶然は法則には含まれない偶然のことであり、統計をとればとるほど、徐々に重なっていくものである。
- 2 仮説的偶然は物理的な仮説の上で成り立っている偶然のことであり、無限の要素を考慮する必要があるものである。
- 3 離接的偶然は、例えばサイコロを振って五のマスが出た後、次の一振りで六つのマスのうちどれかが出ることである。
- 4 原始偶然の世界・個々人が存在する偶然のことであり、予想も説明も不可能な変えようのない事実のことである。
- 5 偶然と芸術とは相性がよく、それは生命感を伴う偶然性から生じる驚異が感動を与え得るためである。

問四 次の文章は傍線部 c「近現代の科学は統計学に依拠している」を説明したものである。(1)(2)に当てはまる語を傍線部の後の本文中よりそれぞれ三字で抜き出して記せ。

自然科学と社会科学は客観性を確保するため、たくさんのデータを集めて数学的な処理をし、出来事という本来偶然かつ(1)に生じるものから(2)を導き出し、成果につなげることを目的としている。

問五 傍線部 d「偶然を統御すること」を比喩的に言いあらわしている言葉を解答欄に合うように、傍線部の前の本文中より八字で抜き出して記せ。

問六 空白部Bに入る最も適当な言葉を次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 1 | 一日一善 | 2 | 唯一無二 | 3 | 朝三暮四 | 4 | 四面楚歌 | 5 | 五分五分 |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|

問七 傍線部e「経験の重さ」の説明として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 統計では経験の生々しさは排除され出来事は均質化されるが、個別の経験にこそ価値があるということ。
- 2 物語は主観的で空虚なものが多いため、経験を積むことでその真偽を確かめることができるということ。
- 3 個別の経験数は積み重ねられるものであり、その数値が高くなるほど結果が社会へ還元されるということ。
- 4 経験は偶然に支配された現実においては何も意味を持たないため、単なる重荷にしかないということ。
- 5 現実には辛く耐えがたいものであるため、自身の心を守るためには様々な経験をしていった方がよいということ。

問八 本文の内容と合致するものを次の選択肢の中から一つ選び、その番号を記せ。

- 1 統計学の発達には自然現象や社会現象の発生を統御することにつながり、がんの罹患率を下げることができる。
- 2 九鬼周造は偶然という問題に真正面から取り組み、その逸脱性が社会を混沌こんとんたらしめていることを指摘した。
- 3 病気になった人の語りを丁寧に分析することは、その人が抱える固有の問題や生き方を知ることにつながる。
- 4 著者は科学の発達によって様々な事柄が数値化されることに警鐘を鳴らし、原点に立ち返る必要性を説いている。
- 5 現代医学は多様なエビデンスに基づいて治療方法を標準化しているため、患者は一樣に安心して治療が受けられる。

問九 傍線部イ、木を漢字に直し、正確に記せ。

〔二〕

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

さてかの女房、院の御子をはらみ奉りしかば、「うめらむ子、女子ならば朕が子にせん。男子ならば忠盛が子にして、弓矢とる身にしたてよ」と仰せけるに、すなはち男をうめり。この事奏聞せんとうかがひけれども、しかるべき便宜もなかりけるに、ある時白河院、熊野へ御幸なりけるが、紀伊国いとが坂といふ所に、御輿かきすゑさせしばらく御休息ありけり。藪にぬか子のいくらもありけるを、忠盛袖にもりいれて御前へ参り、

いもが子^dははふ程にこそなりにけれ

と申したりければ、院やがて御心得あつて、

ただもりとりてやしなひにせよ

とぞつけさせましましける。それよりしてこそ我子とはもてなしかれ。この若君あまりに夜泣をし給ひければ、院きこしめされて、一首の御詠をあそばしてくだされけり。

夜泣すとただもりたてよ末の代にきよくさかふることもこそあれ

さてこそ清盛とはなのられけれ。十二の歳兵衛佐になる。十八の歳四品して四位の兵衛佐と申ししを、子細存知せぬ人は、
「花族の人こそかうは」と申せば、鳥羽院しろしめされて、「清盛が花族は人におとらじな」とぞ仰せける。

昔も天智天皇はらみ給へる女御を、大織冠に給ふとて、「この女御のうめらむ子、女子ならば朕が子にせん。男子ならば臣が子にせよ」と仰せけるに、すなはち男をうみ給へり。多武峰の本願、定恵和尚是なり。上代にもかかるためしありければ、末代にも平太相国、まことに白河院の御子にておはしければにや、さばかりの天下の大事、都うつりなどいふたやすからぬ事ども思ひたたれけるにこそ。

*かの女房……………祇園女御のこと。白河院の寵愛を受けたが、この前段で平忠盛に下賜された。

***院……………白河院のこと。

***ぬか子……………「むかご」に同じ。むかごとは、山芋などの葉の付け根に生じる小さな肉芽のこと。

***花族……………身分の高い血筋・家柄。華族とも。

***太相国……………太政大臣の異称。大相国とも。

問一 傍線部 a「うめらむ」の文法的説明として適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

1 下二段活用動詞「埋む」の未然形＋助動詞「らる」の未然形＋助動詞「む」の連体形

2 下二段活用動詞「埋む」の連用形＋助動詞「らむ」の連体形

3 下二段活用動詞「生む」の連用形＋助動詞「り」の未然形＋助動詞「む」の連体形

4 四段活用動詞「生む」の已然形＋助動詞「らむ」の連体形

5 四段活用動詞「生む」の已然形＋助動詞「り」の未然形＋助動詞「む」の連体形

問二 傍線部 b・c・kの主語は誰か、次の選択肢の中からそれぞれ選び、その番号を記せ。

1 かの女房 2 白河院 3 忠盛 4 清盛 5 後鳥羽院 6 天智天皇 7 大織冠

問三 傍線部 d「いも」は掛詞になっている。何と何が掛けられているか、漢字一字で記せ。

問四 傍線部 e「やがて」・ f「もてなし」・ h「さてこそ」の意味として最も適当なものを次の選択肢の中からそれぞれ選び、その番号を記せ。

e	やがて	3	2	1
		ずっと	すぐに	かつ
f	もてなし	3	2	1
		見せかける	饗応する きやうわう	治療する
h	さてこそ	3	2	1
		ともかく	ところで	しかし
		やっぱり		
		そうして		
		5	4	3
		そのうちに	それゆえ	5
		取り沙汰する	面倒をみる	

問五 傍線部 g「この若君」が指す人物の名前を本文中から抜き出して記せ。

問六 傍線部 i「しろしめされて」とあるが何を知っているのか、その内容と一致するものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 かの女房が忠盛との間に子をもうけたこと。
- 2 忠盛が藪で多くのぬか子を見つけたこと。
- 3 忠盛と清盛は血がつながっていること。
- 4 清盛には高貴な血が流れていること。
- 5 宮廷の事情を知らない人が花族のあり方を論じていること。

問七 傍線部 j「天智天皇」の子とされている人物を本文中から四字以内で抜き出して記せ。

問八 傍線部 l「かかるためしありければ」を現代語訳して、十二字以内で記せ。

問九 「平家物語」とジャンルの異なる作品を一つ選び、その番号を記せ。

- 1 保元物語
- 2 平治物語
- 3 栄花物語
- 4 義経記
- 5 太平記